



VOL 31

2010年1月号

発行 2009年12月30日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

相模野基線網探索

北野 忠彦

AGCによる相模野基線網探索は、2001年5月から、2004年7月にかけて、7回に分けて実施された。その概要について記す。

1、2001年5月26日 田園都市線すずかけ台駅集合、徒歩で東工大裏の基線1次増大点東側の長津田村(高尾山)へ。畑の間をぬって小高い丘の上、社のわきにあった(100.5m)。ここから南町田駅まで歩き、電車で中央林間へ。ここからは、片野さんが下見してきたというので案内してもらい、西南西に広い通り沿いに1.Kmほど進むと、鳥羽医院の柵の内側に基線南端点、座間村(74.9m)。ここから大まかな見当をつけて北北西に進む。基線中間点(84.8m)を経て、小田急相模原駅からバスに乗り、麻溝台中学校前で下車、学校のすぐわきが基線北端点、下溝村(97.1m)である。ここから一旦駅に戻り、本厚木駅まで行き、バスで一本松まで。西南西に300m程の所、愛川町立中津小と町立保育園の間に基線1次増大点西側、鳶尾山(92.5m)があった。今日の予定はすんだので、バスで本厚木まで戻り、駅前で成果を祝って解散した。(参加者:片野、川村、近藤、半田(由)、奈良、松本、北野)

2、2001年11月11日 今回は2次増大点と日本経緯度原点を目指す。永山駅集合、多摩ニュータウンの中を歩いているうちに多摩大のキャンパスが見つかりその裏手に回ったところが2次増大点北側の連光寺村(61.7m)で、ここも社のわきにある。北へ1Km下がったところにバス停があり、聖蹟桜ヶ丘駅に出た。京王線、地下鉄など乗り継いで、麻布台の日本経緯度原点と東京大正(25.4m)へ。この後は新橋へ出て東海道線で大磯まで。大磯からはホームの東はずれから登り始め、約1時間で南側2次増大点南側、浅間山(181.3m)に達した。千畳敷を往復後、高麗山を経て途中からバスに乗り、平塚駅で解散した。(参加者:片野、平野、柳下、奈良、松本、北野)

3、2001年12月16日 今回は房総半島に足を伸ばした。新宿発内房線特急さざなみで佐貫町下車。バスで3次増大点東側の鹿野山(352.4m)に行く。そのあと、神野寺まで下りバスで戻った。佐貫町駅から館山へ。坂田までバスに乗り、ここから房大山(大山)を目指す。要塞跡の残る常緑広葉樹林帯の急登を上がり、展望台のある大山(193.6m)に達した。ここからは別の道を下った後、バスで館山に戻った。(参加者:近藤、鶴田夫妻、松本、北野)

4、2002年4月20日~21日 いよいよ相模野基線網最後の丹沢山だ。大倉登山口を出発。堀山/家、花立、塔ノ岳を経て3次増

大点西側の丹沢山(1567.1m)の点は樹林の中の平坦地に立っていた。山頂、みやま山荘泊。翌日は雨の中、蛭ガ岳、姫次、袖平山往復、八丁ノ頭から青根へ下った。これで相模野基線網探索が完了した。(参加者:片野、川村、近藤、高田、鶴田、寺田夫妻、平野、松本、北野)

5、2003年11月9日 相模野基線 長津田村、基線南端、中間点、基線北端、鳶尾山はほぼ前回と同じ。ただし、鳶尾山の三角点は小さなマンホールの中に埋められていて、観察できなかった。(参加者:鶴田、寺田夫妻、西村、長谷川、羽鳥、平野、北野)

6、2004年3月21日 連光寺、浅間山 連光寺へは聖蹟桜ヶ丘からバスで往復。そのあと永山までバス。永山からは橋本、町田、藤沢、大磯と乗り継ぎ、大磯からは駅の西側から登り浅間山を経て高麗山側へと下った。(参加者:今井、鶴田(実)、寺田夫妻、北野)

7、2004年7月31日 中津小脇にあった1次増大点西側の鳶尾山の点は、本来はその南東に位置する鳶尾山にあったが、その山の西側の宅地造成により、崩落の危険があるとして、移設されたものであったが、本来の場所に戻ったと聞いて探索に出かけた。例の通り、本厚木からバスで一本松に行き中津小を訪ねたものの、マンホールの跡もなかった。中津川

を渡り鳶尾山に向かうが、木の繁った中、思ったよりも複雑な登りを経て鳶尾山山頂へ。明るく開けた山頂で、確かに1等三角点埋設されている。ここから宮ノ前に下り、バスで本厚木に戻った。(参加者:上田、片野、川村、近藤、半田(由)、北野)

その後も、初参加者を含めて、一部コースを繰り返し探索した。このほか近くのいくつかの1等本点を探索した。

8、2002年8月31日 八風山(1325.2m) 軽井沢駅から車で登山口、八風山 物見山 山内牧場 バスで車のデポ 軽井沢駅 (参加者:片野、川村、近藤、寺田夫妻、鶴田、松本、北野)

9、2002年11月2日~11月4日 三宝山(国師岳 2483.3m) 山泊 車でもうき平 十文字峠 三宝山 甲武信ヶ岳 千曲川源流 梓山 (参加者:近藤、高田、高橋、鶴田(泰)、寺田夫妻、半田夫妻、平野、北野)

10、2003年4月12日~13日 毛無山(1945.5m) 朝霧高原泊 麓から毛無山往復 (参加者:片野、川村、鶴田夫妻、半田(由)、奈良、松本、牧田、北野)

(標高は、地形図に従い、小数点2桁を四捨入し、小数点1桁で表示した。)



連載 ゆにーく 標識&標石 長野にある東京



いつも埼玉県のことばかりなので今回は東京について、と言っても、これは長野にある東京である。場所は上水内郡鬼無里村、戸隠の隣にある。公民館は「東京公民館」。バスを見れば「東京」という大きな文字に確かに東京だと納得。そして案内板には「東京案内図」。もう疑う余地は無かった。しかし、案内図の説明の中に「ひがしきょう」とルビがあるのを見て、ガックリ。東京に憧れる人はここに住んでみたらどうだろうか。(遠山)

自己流登山と水汲み

加藤 健樹

私がAGCに入会したのが昨年の暮れで一年近くなる。毎週水・木に仕事があり例会にはあまり参加できないが山行には三回程参加している。AGCに関してはヘルメットを被り藪をこいでいる写真のイメージが強く、道なき所を地形図・コンパスで歩き回る山行がおおいのかとおもっていたが、三角点そのものの調査・研究等かなり学術的な印象である。私は三角点を読図上の一確認点としか捉えていなかったが、三角点も等級だけでなく色々種類があり、りんご畑の中にもあるとは思ってもいなかった。また同行された女性たちの基線や三角点についての豊富な知識と山での知恵には感服させられた。私は基本的には一人で山を歩くことが多い。山は登攀からハイキングまでも登り方や求めるものは人によって千差万別だろうと思う。高校・大学は合宿団体登山が主で、農大ワンゲルしごき事件と同時代、同じようなこともあり全ていい思い出というわけではないが当時は豊かな自然があった。30年近く後、登山を再開したがシーズンの北アルプスの整備されすぎた道・300人くらいの中学生的の団体に巻き込まれたこと鎖場の大渋滞などすっかりめげてしまっていた時、60歳から2年でどれも老人向けでない大変厳しい登り方で百名山を踏破し、本にされた当山岳会の米倉氏と知り合い感銘を受け、私も自分らしい山登りを模索するに至った。私が山で求めるものはなによりも静けさであり濃い自然である。今年はずいぶん高齢者入りしたので大それたことは出来ないが多少の冒険心・好奇心・達成感が満足されればよい。さらに旨い水場があれば言うことはない。又、歴史が好きなのでひっそり隠れた石仏や祠や城跡なども興味がある。私自身は百名山は54しかやってなく今後も増えないと思う。むしろピークにこだわらず過程を楽しむ。低山は入けのない藪山や沢登りとしては面白くない地味な沢にも入る。迷うこともあるが大体そのような時は地形図の先読みを怠り自分に都合の良い思い込みをしたときに陥る。慌てる事もあるがあるが迷い山として楽しむように考えられている。高山は効率悪く人気のないルートを選べばシーズンでも静かで味わいのある山行ができる。甲斐駒なら黒戸尾根、北アルプスはハイシーズンでも白馬の北、鉾山同からの雪倉・朝日が静かな山旅ができる。赤岳なら山梨県側の尾根が断然いい。阿弥陀なら船山十字路から南・中央稜、御小屋尾根が静かである。阿弥陀のいいのは登山口近くに名水がある。清冽で旨く登山の際は必ず汲んで帰る。登山を再開してから各地で水を汲むようになった。我が家は茶・コーヒー・炊飯に湧水を使う。沢水は落ち葉、どろなど混じることがあり、水質も変わるので使えない。地表から湧き出る湧水は真夏でも1ヶ月以上変化しない。湧水も自分なりのランクがある。名水100選に選ばれたところはあまり行かない。渋滞・混雑・時にはいさかいなどもあり、とても汲む気になれない。阿弥陀の名水はトップクラスだが志賀高原大沼近くの志賀の名水・榛名名水・奥多摩では境の名水がいい。水もいいし、入けもない。大滝湧水・箱島湧水は凄く迫力だが水量が多すぎ汲みにくい。丹沢ごま屋敷の名水は人気で人も多いが水量は少なく絶え絶えという感じである。むしろ水無し本谷の途中にある竜神の水のほうがいい。水仙の時期は千葉にも行く。家内と道の駅富山で名物の海苔巻を買って低山ハイクをして不動の水を汲んで帰る。私にとって湧水の基準は、やはり静かで、雰囲気・景観がよく汲みやすいところである。AGCに山登り好きな方々に味わいのある山や湧水の情報を受けたい。幸甚である。

「のろし」「狼煙」「烽火」について 近藤 善則

山岳地域における古来の情報伝達通信の実践計画を策定するにあたって、どのような方法で、どのくらいの情報が、どの位の距離間で、どのくらいの時間で伝達できるのか というテーマの事前情報収集を進めている。現在考えられるのは、太陽光の反射・

のろし(煙)・旗などの視覚を駆使する方法、太鼓・ほら貝などの聴覚に訴える方法、などが考えられるが、それらの中で私が興味深いのが戦国時代の武田信玄の狼煙台ネットワークと、中国・長城における烽火台である。

戦国時代信玄ほど細かく、大規模に用いた者はいないようだ。文献によると秩父・信濃・駿河・武蔵方面に限らず、各地の岩や山城、関門に狼煙台を設け、見落としの無いように複数のルートですべて古府中・躑躅ヶ崎に集中したという。伝達時間は川中島合戦の時、信州の善光寺平から府中間(約160km)を約2時間半で館に届いたそうだ。狼煙台間は2km位から10km位で、近い間は太鼓や鐘が併用され、狼煙の方法としては、煙を細くまっすぐに高く上げる方法と、穴を掘り大火を燃やして瞬時に多量の煙を上げる方法があったようだ。また夜は篝火を用い、後には火薬を用い、打上げ花火形式で多くの情報が伝えられたとある。

一方長城の場合は約一万華里(約5000km)あることから万里の長城と呼ばれたそうだが、実際には幾つもの長城がありその全長は十万八千華里(約54,000km)に及ぶという。それらの情報伝達に狼煙は不可欠で、詳細な防敵戦略が決められていたようだ。資料によるとその伝達スピードは約800kmを3時間以内に通せとあるので、さすがその技術はかなり進んでいたと思われる。

狼煙は狼の糞を燃やしたとされているが、実際は狼のような恐ろしい敵が襲ってくるということからついた語源だそうで、狼の糞とは無関係だと最近知った。

(関連する情報をお持ちの方は是非お知らせください。)

例会の議事録 12月定例会

2009年12月2日(水) 18:55~20:00 於JAC集会室B

出席者15名(北野、平野、近藤、半田(明)、半田(由)、遠山、高橋、森合、山崎、大西、川口、鈴木、関、渡辺、今井(順不同))

内容: 11月21日(土)多摩川分水堤踏査を東青梅から辛垣(からかい)城跡、雷電山を経由する青梅丘陵の区間を軍畑まで6時間ほど歩いた。メンバーは北野、平野、鶴田(泰)、高橋、川口、加藤、今井の7名。(北野) AGCの定例会開催日について、ルーム確保の都合から第2水曜日に変更する提案。異議なしで決定。1月は13日(水)、2月は10日(水)に予定する。(北野) 多摩川分水堤踏査は日没時間、エスケープルートの関係から、次回は多摩川、相模川の分水堤として12月23日(祭日)を予定する。JR・京王線高尾駅北口午前8時集合。小仏峠、城山、大垂水峠、南高尾山稜、高尾山口のコースを予定。ふるって参加願いたい。

AGCレポート11月の記事「劔岳 水平線の記(板坂公平)」に対する解明資料と説明(関) 古来の伝達方法による信号の送受信実践を計画する。次回の定例会に計画してみる。(近藤、遠山) 終了後「鮎の家」で懇親会(15名)以上 (記録:今井)

お知らせ

次回の例会

日時 2010年1月13日(水) 18:30 から

於:山岳会 ルーム

テーマ: 山行報告、古来の通信技術の実践計画 ほか

ご注意: 次回は第二水曜日となります。 なお今後、原則第二水曜日を定例会とする予定で検討しています。

編集後記

>2010年はAGCにとって、盛りだくさんの新しいテーマが待ち受けているようです。従来の「読図山行」「古道調査」「基線山行」に加えて「登山道情報調査」「荒川・多摩川分水嶺」「古来の山岳通信の実践」などなど。皆さんの活躍が楽しみです。

AGCレポート vol-31 2009年12月30日発行

発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表:北野忠彦)

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付

TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441

編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com